

### 3 女性リーダー育成

#### (1) 女性と防災まちづくり「決める・動く 2016」

実施主体	仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台
対象者	町内会など地域で活動している女性、NPO や市民グループに所属し活動している女性など 地域団体や NPO 等からの推薦による参加者を優先。その上で抽選により参加者を決定
目的	地域を牽引し、まちづくりやそれぞれの活動のフィールド等で力を発揮する女性リーダーの育成を目指す。
実施時期	2016 年 7 月 30 日（土）～ 12 月 10 日（土）
事業内容	土曜・日曜の 1 泊 2 日の宿泊研修を含む、6 回（7 日）の連続講座 ・講義・実践「自分の『強み』を活かす」 ・ワークショップ「ネットワークを使いこなす」 ・講義・実践「人を巻き込むコミュニケーション」 ・講義・実践「提案に説得力を持たせる論理思考」他 詳細は、添付資料（募集要項）「プログラム」を参照
定員	20 人
参加費	15,000 円（参考図書・宿泊費含む。同一団体等からの参加について、2 人目以降は 10,000 円）
情報掲載 URL	<a href="http://www.sendai-ljp/jbf/tb/">http://www.sendai-ljp/jbf/tb/</a>
協働先について	仙台市（仙台市の政策課題として位置づけ。プログラム内容の検討・実施は（公財）せんだい男女共同参画財団）
実績	－（2016 年度事業のため）
直接事業経費	1,566 千円
財源	仙台市からの負担金

## 1 事業の背景

### (1) 東日本大震災を通して見えてきたもの

東日本大震災では、阪神淡路大震災、新潟中越地震などの災害から学んできた教訓が活かされ、被災地の女性を支援する動きは早かった。しかし、避難所運営をはじめ、被災地の現場では、女性が意思決定に参画できなかつたり、十分にリーダーシップを発揮することがなかった事象が多く見られ、女性はさまざまな困難と向き合わざるを得なかった。

仙台市では、東日本大震災が起こる以前に、2012年（平成24年）秋の「日本女性会議」の招致を決定していた。震災の発生によりその開催は一時危ぶまれたが、こうした災害に遭遇したからこそ、会議を通して被災地の現状や課題を発信していこうということが再確認され、開催の準備が続けられた。その過程で、実行委員や男女共同参画センターの職員は、ある危機感を感じていた。それは、これまで自分たちも女性があらゆる意思決定の場に参画することを推進してきたにもかかわらず、目の前に起こったのは、取り組みがまだまだ足りず、変革のスピードもこのままでは遅すぎるということであった。

「日本女性会議 2012 仙台」は全国から2,000人以上の参加者を迎えて開催され、防災や復興を初め、女性がさらに社会のあらゆる分野に参画する重要性を確認することとなった。最終日には、会議の総括として、いまだ男女の不平等は無くなっておらず、女性が十分に力を発揮しにくい構造も残っているものの、女性も現在の社会を構成している何らかの責任があるはずだという視点から、「女性たちが決める権利と共に、動く力も責任もある」ことが「仙台宣言」として表明された。

また、2015年仙台市で開催された第3回国連防災世界会議では、仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台（以下、エル・パーク仙台）が、パブリックフォーラム「女性と防災」テーマ館となり、センターを運営する（公財）せんだい男女共同参画財団（以下、財団）が、「女性のリーダーシップ」をテーマにシンポジウムや展示などの関連企画を展開した。防災世界会議の成果物である「仙台防災枠組」では、女性が復興や防災に関わることやそのための教育訓練の重要性が確認されることとなった。

### (2) 新しいリーダー像

このように東日本大震災以降、財団では復興における女性の参画促進に重点的に取り組んできたが、特に強調してきたのが、新しいリーダー像を描くことである。従来の上位下達的なリーダーシップだけがリーダーの資質ではなく、さまざまな復興のプロセスで女性が発揮している力に焦点をあて、再評価することで、多様な女性のリーダーシップの見える化、新しいリーダー像の創出と人材の掘り起こしを行ってきた。

その成功事例の一つが、働く女性を支援する「企業の未来プロジェクトー仙台女性リーダートレーニングプログラム (Company Future Program 以下、CFP)」であった。このプログラムは、女性の活躍による被災地の経済復興を狙いとし、企業における女性管理職育成を目的としたものであったが、次世代育成、マネジメントカアップにつながるプログラムは、地域活動版もやってほしいという声がNPOグループからも寄せられていた。

### (3) 地域を牽引する女性リーダーのトレーニングプログラム

「地域において女性が防災や復興にいかにかかわっていくか」、この答えは、平時からいかに、「女性が決める権利と動く力も責任もある」ことを自覚し、意思表示や行動ができるかにかかるといえる。それが東日本大震災からの教訓であった。2016年には、改定された「男女共同参画せんだいプラン」がスタートするが、その新規重点課題として「地域防災や復興まちづくりを担う女性の人材育成及びネットワークの構築」が謳われ、「防災まちづくりプログラムの参加者を5年で100人にする」という数値目標も掲げられた。

こうした経緯と背景のもと、「女性と防災まちづくり 決める・動く 2016」（以下、防災まちづくり講座）は、地域を牽引し、それぞれのフィールドで力を発揮する女性リーダーの育成を目指す講座として本年度からスタートした。

## 2 事業の特徴と内容

### (1) CFP トレーニングプログラムと共通する内容を採り入れたこと

防災まちづくり講座の特徴の一つは、前述のCFPの成功要因である、講座の枠組みや内容・構成などを積極的に採り入れたことである。

地域でも職場でも、しばしば指摘される女性の課題は自己肯定感が低いことである。CFP トレーニングプログラムでは、「ストレングスファインダー」という自己の強みを知るアセスメントを導入した。できていないことよりも、できていることを伸ばす、参加者からは、自己の強みを理解し、使いこなせたことで自信につながる、他者とのコミュニケーションにも良い影響があったと好評を得ている。ビジネス界ではすでに、活用されているアセスメントであるが、地域活動にかかわる女性たちにも応用できるのではないかと考え、同じプログラムの導入を決定した。

また、市民グループ活動や地域活動では、どうしても目の前の課題や多忙に追われがちで、次世代育成や長期的な活動プラン、ビジョンの設定などがなされていないことも多く、目標設定やグループマネジメント、周囲を巻き込むための論理的思考なども、CFP トレーニングプログラムを参考に市民活動バージョンにしてプログラムに採用した。

### (2) 「わかる」で終わらず「できる」にするための仕掛けをつくる

「わかる」と「できる」ことは必ずしもイコールではない。その溝を自分で埋めるための参加者の主体的な行動を促すものが「チャレンジ」と名付けられたホームワークである。これはCFP トレーニングプログラムで、座学で終わることのないよう工夫し、成果を上げた仕掛けであり、毎回講師から、学んだことを自分の活動や地域にもどって実践する課題を出してもらおうというものである。例えば、「強みを見つける講座」では、「自分の強みを普段どんな場面で使っているか、意識してみる」という「チャレンジ」が出され、それを次回の講座の初めにどのように取り組んでみたか、気がついたこと等を、参加者同士がシェアする。こうした時間を組み入れることで、参加者同士の相互学習の中こそリア

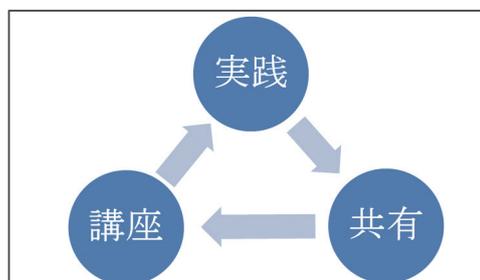
ルな学びがあること、参加者の現場こそが実践の現場であり、講座で学ぶことが最終目的ではないことの確認につながるよう講座を進めた。

### (3) 実践の場をもっている女性を対象としたこと

講座は対象者を、活動のフィールドがあり、解決したいという課題をもって地域活動をしている女性に絞り込んでいる。また、団体推薦がある人の受講を優先に、一つの組織から複数の受講の奨励も行った。

これらの条件は、知識習得で終わらずに、学んだことをどう活かせるかを体得するまでとしたゴールを達成するために、参加者が学んだ事を現場にフィードバックし、成果や手ごたえを確かめることができること、講座修了後も組織内での共感者を増やし、その後の活動にプラスとなることを狙いとしたことによるものである。

これは CFP が働く女性個人の申し込み方式をとらず、企業がプロジェクトに参加し、トレーニングプログラム受講生を推薦するという枠組みにしたことで、参加者からも派遣元の企業からも、研修の成果が見えるという評価を受けたことを参考にしたものである。



### (4) 地域リーダー育成プログラムとしての独自性

「防災まちづくり」講座は、CFP と共通の学習ポイント、例えば、「人を巻き込んで活動すること」「ネットワークの重要性」等を組み込んである。これは、地域リーダーにもマネジメント力は必要であると考えたことによるものであり、講師にもこうした狙いを伝え、参加者の現状を説明するなどして、講座の準備を依頼した。

また、すでに仙台市は5年の復興計画期間を終了したが、他の被災地の復興はまだ遅々として進んでいないことから、被災地を広く理解し、自分たちの状況を客観視できるよう県内他自治体の女性たちとの交流を考慮した講座もあるなど、独自のプログラムづくりに取り組んだ。

## 3 成果と課題

### (1) 参加者にとって

町内会、地区防犯協会、社会福祉協議会、種々のNPO 団体、年代も20代から60代と、当初想定した以上にさまざまなバックグラウンドを持つ女性たちの申し込みがあった。このことは、参加者の交流はもとより、多様な体験や現場が持ち込まれることで相互学習の深まりにつながったといえる。また、参加団体のうち5団体が2から3人の複数申し込みをしており、受講後の活動推進のための仕掛けが受け止められたと考える。

終了後のアンケートからも、地域団体同士がつながるきっかけになったことを収穫としてあげる参加者も多かった。

## (2) 男女共同参画センターにとって

これまでセンターがつながっていなかった多様なフィールドから、定員の20人の募集数を超える30人の応募があった。講座の制約上、若干の定員は増やしたものの、選考を行わざるを得なかった。こうした反響は、内容がニーズにマッチしていたことはもとより、担当者が男女共同参画部署だけでなく関係部局や区役所街づくり担当部署、地域団体などへも赴き、ヒアリングや広報を行ったことによるものであると考えられる。

担当者からは、「草の根保守は根強く、地域でジェンダー問題を考えるのは難しいと思っていたが、目の前にいる〇〇さんの悩みを聴くという関係に置き換わると、それはハードルではない」「教えたり、啓発する対象としての市民ではなく、互いに学びあえる存在として市民の方々をもっと信じていい」という感想があった。地域や地域で暮らす市民のリアルを感じられたこと、顔の見える関係が築かれたことは、今後の事業展開を考える上でも、地域へ出向くきっかけとなりうることから、センターにとっては収穫と捉えている。

また、地域にはさまざまな団体やグループがあるが、それらをつなぐ役目をセンターが果たせたことも成果といえるだろう。



## (3) 課題

参加者が互いを支え続けるネットワークができることは講座の評価指標の一つであったが、修了時点ではその展望が得られず、次年度の課題となっていたが、その後、自主的なネットワークが立ち上がった。講座の中でも、企画側が誘導せずに、任せることで想定以上の学習が展開したこともあり、参加者には学ぶ力があるということを再確認したことは、企画する側にとって貴重な体験であるとともに、今後の方向性への確信でもある。「学ぶ力を引き出す講座」の在り方は、新たな挑戦であり、5年間継続する本事業を通してさらに、追求していきたいと考えている。

## ■事業参加者インタビュー

NPO 法人アフタースクールぱるけ 代表理事  
谷津 尚美さん



2002年、障がいを持っている子どもや家族が地域で安心して暮らせることを目的に、アフタースクール「ぱるけ」を立ち上げた。2005年にNPO法人となり、現在では障がいを持っている子どもや家族の支援を行う事業所5カ所を運営している。東日本大震災の後に、セーブ・ザ・チルドレン×さなぶりファンド こども☆はぐくみファンド支援事業から助成金支援を受けたが、こうしたつながりを通して法人運営のマネジメントも教えてもらう等、新たな活動の課題も見えてきた。NPO法人になってから、ちょうど10年目の節目をむかえた2015年から、中長期目標やビジョンを再考し、現在それに向かって全職員で取り組んでいるところである。法人の代表として自分自身を高めたい、という思いを強くしていた時に講座のことを知った。

ぜひ受講したいと思ったが、法人の仕事が大変忙しくなっており、受講できるかどうか迷っていた時に、エル・パーク仙台の担当者から電話をもらい、それが背中を押してくれた。いったん、決心をしたものの、一緒に暮らしている母の介護で、平日はヘルパーさんの力をかり、週末は生活のバランスをとるため、なるべく仕事を入れないようにしていたので、土曜日の講座を受けるには、さらに家族の協力と理解のもと日程を調整しなければならなかった。講座を修了して、手に入れたものはたくさんあったが、家庭と仕事、育児と介護をしながら学ぶことが大変だった自分の経験が、女性の役割としてケアの役割を担っている女性たちの参考になればと思ってインタビューも受けることにした。

講座は、ストレングスファインダーや自分のコミュニケーションの取り方、周囲を巻き込んでチームを作ることなど、日常で活かしたい内容だった。講座を受けて自分の行動が変化したと思えるのは、自分の強みの活かし方を理解できたこと。中でも「責任感」という自分の強みを、相手にも求めすぎたために、感情的になっていたのだということが理解できたことで、楽になって、自分の感情もコントロールできるようになったと感じている。そのことで、職員の強みにも目が向き、一番力を発揮するにはどんな方法がいいのかとか、仕事を前より任せてみようと思えるようになった。5つの事業所のリーダーに対する指導も変化し、それがリーダーそれぞれの現場での職員とのやり取りの変化にもつながっていると知っている。

20代から60代まで、防災というキーワードに同じ思いをもって参加した方たちとの出会いは最初から楽しみだった。障がいのある人たちが地域の中で安心して暮らしていける社会をつくらうという「ぱるけ」のミッションを考えると、地域の核となっている町内会や婦人防火クラブの方々となることができたことは、有意義だった。もっとつながりが深まるように、互いの話を聞ける時間があってもよかったと思う。

■ヒアリング実施日・場所：2016年12月20日（火）・エル・パーク仙台

Women Can Do It!

## 女性と防災まちづくり 決める・動く 2016

## 今、求められる次代の女性リーダー

女性が意思決定の場に参画することは、災害に強く、誰もが暮らしやすいまちづくりに欠かせません。多様な女性たちが発言することにより、まちづくりにさまざまな住民のニーズが反映されます。

この「決める・動く2016」は、実践的なプログラムをとおして、女性が地域でリーダーシップを発揮するための力をつける研修事業です。参加者同士が双方向に学び合いながら、それぞれのリーダーシップを見出し、次のチャレンジに向かうことができます。

東日本大震災から5年。まちづくりの担い手として積極的に地域に関わる女性の輪は、着実に広まりつつあります。その歩みを止めず、さらに「変革」を推し進めましょう。

実施期間

2016年7月30日(土)～12月10日(土)  
(全7日間、約24時間)

対 象

女性 20名

- ・町内会やPTA、社会学級など地域で活動をしている方
  - ・NPO や市民グループ、ボランティア団体に所属し、活動している方
  - ・地域でこれから活動を始めたいと考えている方
- ※地域団体やNPO等からの推薦で参加される方を優先し、その上で抽選により決定します。

参 加 費

15,000円 (参考図書・宿泊費含む)

※同じ地域団体等から複数名で参加することで、1人で参加するより“やりたいこと”の実現性が高まります。複数名参加特典として、2人目から参加費10,000円とします。ぜひ、ご検討ください。

会 場

仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台  
(仙台三越定禅寺通り館5・6階)

※宿泊研修は「南三陸ホテル観洋」(南三陸町)

申 込

参加申込書を7月21日(木)までにFAX・E-mail、または郵送してください。

※参加申込書は財団ホームページ (<http://www.sendai-l.jp>) からダウンロードできます。

託 児

託児利用料：子ども1人300円/回。6カ月以上小学1年生まで。  
しょうがいのあるお子さんや上のお子さんについてもご相談ください。  
(宿泊研修には託児が付きません。)

【問合せ・申込先】 仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台

TEL 022-268-8300 / FAX 022-268-8304 <http://www.sendai-l.jp>

〒980-8555 仙台市青葉区一番町4丁目11-1 141ビル(仙台三越定禅寺通り館)5・6階

## プログラム

期日	時間	プログラム	会場
7月30日(土)	13:30 ~ 16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オリエンテーション</li> <li>■ 個別目標の設定</li> </ul>	エル・パーク仙台
8月27日(土)	9:00	仙台駅出発 ■【交流プログラム】東松島市を予定 <昼食> 南三陸ホテル観洋着	宿泊研修 南三陸ホテル観洋
	13:00 ~ 17:00	■【講義・実践】「自分の『強み』を活かす」 講師：森川里美氏(ストレングス・ラボ代表/ギャラップ認定ストレングスコーチ) 自分の「強み」を見つけるストレングスファインダー(米国ギャラップ社が開発したツール)を使用。目標達成に向けて、自分の資質を理解し「強み」につなげます。	
	18:30 ~ 20:00	■【夕食/交流会】	
8月28日(日)	8:45 ~ 9:45	■「語り部バス」による被災地見学	南三陸ホテル観洋
	10:30 ~ 12:00	■【ワークショップ】「ネットワークを使いこなす」 講師：宍戸美奈子氏(ノルウェーに学ぶ会/特定非営利活動法人「女性と仕事研究所」認定キャリアアドバイザー) ネットワークはつくって終わりではありません。貢献するからこそ支えられるネットワークづくりを目指します。	
	16:00	<昼食> 南三陸町発 仙台到着	
9月17日(土)	9:30 ~ 10:00	■ 前回プログラムの振り返り	エル・パーク仙台
	10:00 ~ 12:00	■【講義・実践】「人を巻き込むコミュニケーション」 講師：藤田潮氏( and Cs (アンドシーズ) 代表) 周囲の人をどのように巻き込み、関係性に働きかけるのか。グループマネジメントのためのコミュニケーション力を磨きます。	
	12:00 ~ 12:30	■ ディスカッション	
10月22日(土)	9:30 ~ 10:00	■ 前回プログラムの振り返り	エル・パーク仙台
	10:00 ~ 12:00	■【講義・実践】「提案に説得力を持たせる論理思考①」 講師：榊原進氏(特定非営利活動法人都市デザインワークス代表理事) 相手を納得させるために、活動への想いを裏付けるデータや根拠を示し、論理的に説明する力をつけます。	
	12:00 ~ 12:30	■ ディスカッション	
11月12日(土)	9:30 ~ 10:00	■ 前回プログラムの振り返り	エル・パーク仙台
	10:00 ~ 12:00	■【講義・実践】「提案に説得力を持たせる論理思考②」 講師：榊原進氏	
	12:00 ~ 12:30	■ ディスカッション	
12月10日(土)	9:30 ~ 12:30	■ 研修成果報告 ■ 交流会	エル・パーク仙台

## (2) 女性のための社会参画セミナー 「かなテラス カレッジ (江の島塾)」

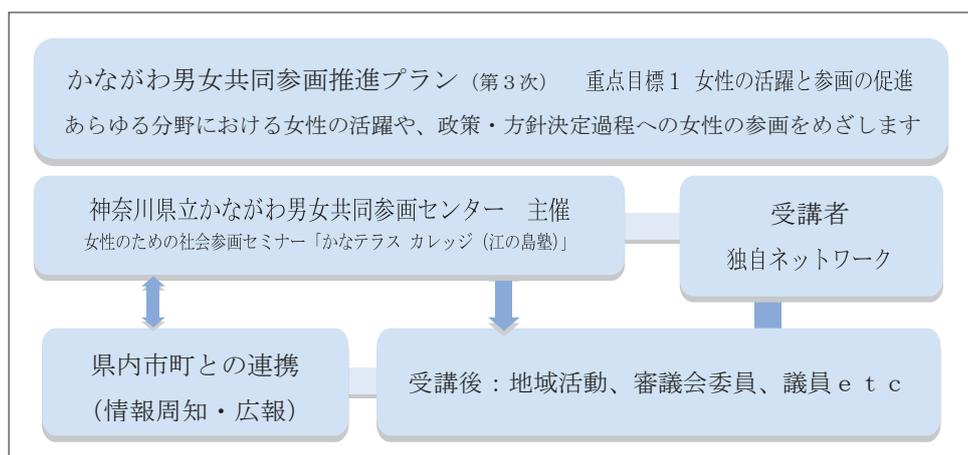
実施主体	神奈川県立かながわ男女共同参画センター かなテラス
対象者	地域活動・社会活動に参画する意欲をもつ女性
目的	政策の立案・方針決定の場への女性の参画を促進し、女性の政策立案能力の向上を図るために、政策を企画・立案・発信していく手法を学ぶ。
実施時期	1997年度から継続して実施（2014年度までは、かながわ女性センターにおいて社会参画セミナー「江の島塾」として実施 * 2015年4月1日、かながわ女性センターが移転し、かながわ男女共同参画センターに名称を変更。以降、「かなテラス カレッジ (江の島塾)」として実施
事業内容	(2016年度の事業内容) ・ 2016年6月4日(土)～9月17日(土)の土曜(全10日間) ・ テーマ・キャッチコピー「女性の参画が社会を変えるー社会を変える政策の企画・立案・発信手法を学ぶー」 ・ プログラム(内容)についてはP69参照
定員	30人
参加費	全日程参加 3,000円、各日参加(1日2コマ) 500円
情報掲載URL	<a href="http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f41207/p1006077.html">http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f41207/p1006077.html</a>
協働先について	平塚市(人権・男女共同参画課):市内への広報 藤沢市(人権男女共同参画課):市内への広報 茅ヶ崎市(男女共同参画課):市内への広報 寒川町(協働文化推進課):町内への広報
実績	1997年度～2015年度まで(19回)の受講者累計は延べ611人。過去受講者を対象とした調査結果(2001年度～2015年度まで10回実施)によると、委員・議員等に就任経験があると回答した受講者は、市町議会議員17人、国・県・市町村の審議会・協議会委員等77人(うち、議員と委員両方の経験者6人)、合計88人となっている(過去調査からの累計)。
直接事業経費	857千円
財源	行政事業費直接執行

## 1 事業の背景

「かなテラス カレッジ（江の島塾）」は、神奈川県が主催する自主事業で、県の男女共同参画推進プラン（第3次）で位置づけられている「女性の活躍と参画の促進」に向けて取り組んでいる事業だ。特に、同プランでは、「審議会等における女性の登用の推進」を掲げており、それを進めていくために、「かなテラス カレッジ（江の島塾）」が行われているという背景がある。

事業が始まったのは、1997年で、当時は神奈川県の審議会等における女性委員の登用率は24.9%であったが、2015年度に34.5%になった。2017年度40%が目標値となっている。

かなテラス（神奈川県立かながわ男女共同参画センター）は、江の島（神奈川県藤沢市）にあった「かながわ女性センター」が前身で、2015年4月に、江の島から藤沢駅近くの県合同庁舎内に移転した。かなテラスでは、現在、調査研究、人材育成、相談、情報発信・意識啓発の4つの機能を柱として事業を実施しており、この中の人材育成の部分に「かなテラス カレッジ（江の島塾）」が位置づけられている。



## 2 事業内容

### (1) プログラム

セミナーは土曜の10時から15時半までで、全体で10日間の連続講座となっている。午前中2時間、午後2時間がそれぞれ講義・ワークの時間で、最後の30分はアンケート記入と事務連絡にあてている。2時間の使い方と内容は、基本的にそれぞれの講師にお任せしているが、講義中心の場合もあれば、ワーク中心の場合もある。講座を受ける受講者の意識や取り巻く社会背景が時代とともに変わってきているため、プログラムや内容は、時代に即し変えてきている。

講座では、年度によって特定のテーマ（例：社会保障、女性を取り巻く法制度、まちづくり等）を扱うこともあったが、基本は、地域活動／社会活動に参画する意欲をもつ女性を対象に、社会づくりのためのヒントやツールとして、「(政策を) 企画・立案・発信する」

手法を獲得してもらうことを主な目的としている。

個々の受講者は、多様な興味関心をもっており、個別のテーマではなく、さまざまな関心分野において、それらを社会でどのように企画・立案・発信をしていくか、またどのように合意形成をしていくかなどについて、個々の関心分野やテーマを超えて学び合うことができる。

講師の選定で一番大切にしているのは、難しいこと、専門的なことをわかりやすく伝えることができることである。学びに来た人に、内容がいかにかかりやすく伝わるかが受講者の満足度にも関わる大切な点だと考えている。講師については、所長を含めかなテラス全体で議論をし、講師交渉を行う中で最終的に決定している。年度によって講師は変わるが、前年度に続きお願いする講師もいる。



男女共同参画の基本的な考え方、女性の社会参画の現状や意義などについては、導入の講義等で触れている。男女共同参画の理念を根底に置き、それを踏まえた上で、プレゼンテーションやコミュニケーション、ファシリテーションなどを学んでいくプログラムになっている。

全日程参加申込者で7割以上参加した方には、最終日に所長名の修了証を発行している。

## (2) 参加者層

事業は20年間続いており、年度によって参加者数に変動はあるが、毎年、受講者が集まり、事業が継続している。藤沢駅近く（県藤沢合同庁舎）に移転後は、交通の便がよくなるなど、利便性が高くなったこともあり、定員を超える申込みがある。講座は、全日程での参加のほか、定員に余裕がある場合には、関心がある日のみの各日参加も受け付けている。受講者の中には、継続的に学びたいという人や、何年かおきに受講している人、メニューが新しくなると受講するという人もおり、一度参加したら、もう参加しないということではない。また、最近では、働いている方が自身のスキルアップの必要性を感じて参加されているというケースが多いように見受けられる。

年齢層は、20代から70代までと幅広く、中心層は、概ね40代となっている。また、最近では、20代、30代の若い年齢層の方の参加も増えてきた。今後も、若い人にとっても魅力ある講座にしていきたい。

アンケート結果によると、講座についての情報を得たのは、インターネット（かなテラスホームページ等）、連携している市町や図書館、公民館等で配架されているチラシをみた方などさまざま。セミナーは近隣の市町と共催で行っており、市町には広報面で協力を得ている。かなテラスの他の講座を受けた人が、そこで知って参加する場合もある。

受講者の中には、過去にも受講したリピーターもいるが、最近は新しい方（初めて参加する方）のほうが多い。移転する以前（江の島時代）は20代の参加はほぼなかったが、移転後は20代の参加も見られるようになった。多種多様な年代、立場の方が参加し、刺

激し合っている。年代や立場が違って、講座の中で話し合いが深まっていく様子を感じられる。20代から70代の、年齢の違う人同士が、10日間の中でいろいろなやりとりをしている。それ自体が、コミュニティ形成といえるのではないか。

### (3) 受講料

受講料は、現在、3,000円（全日程参加）の設定としている。有料となったのは、2014年度からである。内容が自己啓発的である講座は、無料ではなく受講料を徴収することとなった。ただし、受講料で講師料を含めた講座実施に係る経費を全て賄うという考え方ではない。

有料にした当初は、「今まで無料だったのになぜ有料になったのか」「無料の方がいい」といった意見があったが、理由を説明するとともに、世間一般の自己啓発セミナーよりは安価であることを伝え、理解を得た。

最近では、受講者から「出席率を上げるためには受講料がもっと高くてもいいのではないか」「3,000円では安すぎるから受講者が休んでしまうのではないか」といった意見をいただくこともある。

### (4) 受講後のフォロー（追跡調査）

受講者の追跡調査を、2001年度から実施している（2015年度、10回目の調査を実施）。調査は、複数回受講した人等を除き、住所がわかっている受講者全員を対象に、過去の受講者を含めて郵送で現況について聞いており、現在の調査対象者は、200人を超える。

調査を行う中で、講座を受講した当初は特に何もしていなかったという人が、その後、何年かたって地域活動（社会参画）をはじめたり、さまざまな社会参画活動を経て審議会委員等をするようになっていたり、地方議会で議員になっていたりすることがわかっている。審議会でも、地域活動でも、どんな形でもよいが、何らかの形で社会参画が進めば講座としては目的を達成したことになる。

また、受講後に受講者同士のグループ作りを意図的に仕掛けることはしていないが、自主グループや受講者同士で情報交換をするメーリングリストはつくっているようだ。主催者としては、講座終了後に、受講者同士が情報交換できる場を提供するなど、側面的にサポートをしている。

受講後にできたグループの登録制度はないため、すべてのグループは把握していないが、いくつかのアフターグループが活動を継続しているようだ。

## 3 課題と展望

課題として認識しているのは、プログラムが時代にマッチしているかを常に検証するということである。社会状況の変化に伴い、受講者のニーズをどう把握し、ゴールとしてどこを見据えていくのかは、常に検証が必要だ。計画上の目標は、審議会等に女性の参画を進めていくことにはなるが、社会参画の方法やプロセスはさまざまであり、受講者一人ひとりの将来に役立ててもらえるプログラムを考えていきたい。

受講者のフォローアップ調査で、現在、審議会委員になっているといった回答もあり、今後も講座の受講が、社会参画につながることを目指して、プログラムを考えていきたい。

受講者は多種多様であり、働きながら社会参画したい方、現在は就業していない方、介護をしながら地域で活動をしたい方、子育てが一段落したので勉強したい方など、状況によって参画の仕方も違ってくるため、ニーズをくみ取りながら、時代背景にあったプログラムを作っていきたい。

ただ、プログラムの中で、導入部分など、どうしても押さえておくべき要素もあるため、全体の内容やテーマは変わっても、基本的な部分は変わらない。

最近の流れでは、社会保障や法制度などというように、主たるテーマを年ごとに設けて講座を実施するという形ではなく、テーマ性（社会課題等に関するテーマ）はなくしているのが特徴的である。メインのテーマを設けず、個々のどのような興味関心のあるテーマにも応用が可能な、政策の企画・立案・発信の手法を学んでいくというのが現在の方針である。この方針は、継続していく予定で、その上で、具体的な中味の部分をリニューアルしていく。

これだけ中長期で学べるセミナーは全国的にもなかなかないと思う。それが、「かなテラスカレッジ（江の島塾）」の特徴の一つである。また、企画・立案・発信手法を学び、セミナーの中で、実際にグループで議論して立案しプレゼンテーションをするなど、社会参画の手法を体感型で学べるのが強みである。

会場の規模や受講効果をより高めるため、定員は30人と比較的少なく、受講者同士はもちろん、講師と受講者の距離も近いので、自然にネットワークやコミュニティが発生する環境となっている。

今後も、たくさんの方に受講していただき、女性の社会参画につながる、さまざまな活動をはじめていただきたい。

## ■事業参加者インタビュー

峯尾 奈緒子さん

藤沢市在住 2015 年度受講者



移転前から、かながわ女性センターを知っており、藤沢移転後も、自分が興味を持てる講座はないかをチェックしていたところ、ちょうど、関心のある内容の講座を見つけ、スケジュール的にもいいなと思い、講座に参加した。

以前は勤めていたが、その後仕事を辞め、家にいる時間が長くなり、社会福祉の資格を取ろうと勉強をはじめていた。また、ちょうど自治会役員をはじめた時期にも重なった。

仕事をしていた時は、地域の活動がどうなっているか知らず、子育てを通して地域を知るという経験もなかったため、地域のことがわかるとよいという思いがあった。

若い時は、社会と自分とを結び付けて考える機会はあまりなく、会社の狭い人間関係のなかで生きていた。ただ、歳と共に、地域とのつながりの必要性を感じることもあり、地域住民なのだという自覚を持つようになった。今は、自治会の活動をしていて、一人暮らしの高齢者や、地域とは関わりが薄い人も多くなかで、若い世代や、年齢が高くても活動できる方をどうやって巻き込んでいくかが私の一番の関心事になった。

講座で、地域の現状や、活動をしている方を知り、地域に一步近づいた感じがある。実際に自分が動き出すためには、仲間が必要だと思っている。まだ、仲間づくりには時間がかかると思うが、自分のやっていきたいことの将来像の部分が得られたという思いがある。

講座のなかでは、グループワークを通しての出会いがあった。また、過去の受講者がつくっている卒業生のメーリングリストがあり、ゆるくつながりが継続されており、そこから情報を得ることができ、非常によい刺激になっている。また、講座でプレゼンテーションの仕方を学んだことで、情報をまとめ、発信する力があると、自分が言いたいことがしっかり伝えられるのを、自治会活動をはじめとした日常の中でも実感してきている。

この講座を通して考えたのは、どうやってネットワークをつくっていくかということについてである。今の時代、インターネットにアクセスできない方たちは情報から置き去りになってしまうという問題もある。自治会などの地域活動も同様の問題を抱えていると感じる。難しい問題だが、そこをどうやってつないでいけるかも考えていきたい。

また、将来的には、地域で人が集まれる場所を提案していきたいという思いがある。特に自治会のことを考えると、ネットでのつながりとともに、近所で人が寄れるようなスペースがあれば、情報交換の場となり、活動自体の拠点となる。そうした人が集まれる場所が地域には必要であると思う。

■ヒアリング実施日・場所：2016年12月28日(水)・かなテラス 男女共同参画支援室



平成 28 年度 女性のための社会参画セミナー

# 「かなテラス カレッジ（江の島塾）」 ～社会参画を目指す女性のためのセミナー～

皆様と共に  
「20年目」  
を迎えました。

## 女性の参画が社会を変える

### —社会を変える政策の企画・立案・発信手法を学ぶ—

●日時： 6月4日～9月17日（土曜日 全10回）  
10:00～15:30 ※昼休み 12:00～13:00



- 場所： かなテラス(かながわ男女共同参画センター) 県藤沢合同庁舎 2階
- 対象： 地域活動・社会活動に参画する意欲をもつ女性
- 定員： 30名 \*全日程参加者を優先、応募者多数の場合は抽選
- 内容： プログラムは裏面に掲載
- 締切： 5月25日(水) \*座席に余裕がある場合には、随時申し込みも可(要問合せ)
- 受講料： 全日程参加3,000円、各日参加(1日2コマ)500円 (欠席した場合、納付いただいた受講料の返金はできません)
- 託児： 無料、1歳～就学前児童(要予約、おやつ代は別途130円/回)
- 申込み方法： 電話またはフォームメールでお申込みください。  
①講座名「女性のための社会参画セミナー かなテラス カレッジ」  
②氏名(ふりがな) ③〒住所 ④電話番号  
⑤託児希望の有無(有の場合、お子さまの氏名(ふりがな)、年齢、性別)



- 申込み・問い合わせ先： かなテラス(かながわ男女共同参画センター) 参画推進課  
電話 0466-27-2115 (休館日:月曜日、4月29日、5月3～5日)
- 交通： JR、小田急、江ノ電藤沢駅から徒歩10分

主催 藤沢市鶴沼石上 2-7-1 県藤沢合同庁舎 2階 (0466)27-2115

共催 平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町



プログラム

月 日	内 容 (午前:10:00~12:00、午後:13:00~15:00) ※15:00~15:30は講座に関する事務連絡等の時間となります。	講 師
1 日目 6/4	午前:「女性の参画が社会を変える -21 世紀型社会をめざして-」	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授 梶島 洋美氏
	午後:「互いを知り、信頼関係を築く -違いを活かすチーム・ビルディング-」	昭和女子大学 人間社会学部 講師 本多 ハワード 素子氏
2 日目 6/11	午前:「本当の問題はどこにあるのか -自分のものの見方や思いこみに気づく-」	有限会社イーズ 中小路 佳代子氏
	午後:「望ましい変化を引き起こす -システム思考入門-」	
3 日目 6/18	午前・午後:「ファシリテーション力 -力を引き出す、活かす方法-」	立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏
4 日目 6/25	午前:「女性活躍社会に向けた政策・施策の現状 -生きづらさからの脱出-」	日本女子大学 人間社会学部 准教授 永井 暁子氏
	午後:「地域における社会参画の現状と実際 -自治体の審議会委員等の現状について知る-」	NPO法人藤沢市市民活動 推進連絡会 事務局長 手塚 明美氏
5 日目 7/2	午前・午後:「ディベート(議論する)力 -論理的に考え、正しく伝え、実りある議論をするために-」	日本ディベート協会 副会長 瀬能 和彦氏
6 日目 7/23	午前:「合意形成について学ぶ① -あれだけ協議をしたのにまとまらないのは何故か-」	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授 曾根 泰教氏
	午後:「合意形成について学ぶ②-合意形成の手法を知る- 「学ぶ、考える、話しあう」方法とは」	
7 日目 8/27	午前・午後:「身近な課題を政治の場に -請願・陳情にチャレンジ-」	NPO法人アビリティクラブ たすけあい 理事 大海 篤子氏
8 日目 9/3	午前・午後:「コミュニケーション・プレゼンテーション力 -声と言葉による発信力を高めよう-」	株式会社テレビ朝日アスク 講師 山口 容子氏
9 日目 9/10	午前:「政策提案の手法を学ぶ -私たちの暮らしと地域社会再生-」	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授 梶島 洋美氏
	午後:「政策提案の手法を学ぶ -参加と政策作り①-」	
10 日目 9/17	午前:「政策提案の手法を学ぶ -参加と政策作り②-」	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授 梶島 洋美氏
	午後:「政策提案の手法を学ぶ -参加と政策作り③-」	

※プログラム、表題については変更となる場合があります。